

地域コミュニティの活性化に向けた5つの取組の具体的な方策案

## 人材の発掘と育成

- 団体の活動内容を広くアピールする。
- 行事に参加してもらう中で、仲間を探す。
- 広報、HP等でアピールする。
- 役員が生き生きと活動しているところや、その使命感を記事にしてマスメディアに掲載してもらい、役員や協力者を広く募る。
- 区・町内会・自治会の中に趣味やスポーツ、ボランティアのグループづくりをして、イベント時に活躍してもらう。
- 子ども会、老人会、婦人会という世代別ではなく、いろいろな世代が混じって活動することにより、次世代の子どもたちの育成にもつながるのではないか。
- 人材発掘の一番は“口コミ”である。“ボランティアは楽しい”という事を見てもらい、その結果ボランティア活動を続けていただく。
- 決して（活動への参加を）強制しない事である。特に女性はその事が大切だと思う。
- ボランティアのイメージをわかりやすく工夫を凝らす。
- 学校や企業からも 市民活動に対する教育、啓蒙をする。
- 熟年大学などの講座の中に、ボランティア活動の認識を深めるようなものを取り入れる。
- ボランティア育成、相談員育成、リーダー育成講座の開催する。
- 人材の活躍の場を創造する。例えば、小学校を地域へ開放することをもっと進める。目的をもったコンペやコンテストを開催する。

## 情報の共有

- 市民活動支援センターの施設や機能を十分に活用する。
- 月1回、各団体から代表者が活動内容や事業のPRを一つの会場に集まって行う。それを事前にプレスリリースしてマスコミに取り上げてもらって広く市民にPRする。
- 地域の集会所で定期的に情報交換や人物交流のできる場を設けたり、身近なところで情報を得ることができる場づくりをする。
- コミュニティ広報誌に地域団体の情報（小学校・中学校・PTA・社協・老人会等）を載せ、地域全体で問題意識を共有する。また、記事等は募集する。
- データ収集と更新が必要。
- 情報サイトの活用とともに、紙媒体での広報とポスティングを行う。
- 地域の将来像、方向性などを地域全体で共有し、実現に向けて、各種団体と活動がコラボできる体制づくりをするために、活動内容を提示できる場を見つけ出す。（市民活動団体等との相互理解をする）

## 魅力ある事業の実施

- 事業に対するニーズを探るために各団体のアンケートや事業実施報告を共有して事業計画に生かす。
- 地域で活躍しているテーマ型の団体に声をかけ、協働のイベントを行う。
- 花を植えるグループにみどりのカーテンづくりなどの講習会を企画してもらいその後交流会を行う。
- 行事の継続も大切だと思われるが、マンネリ化しないように絶えずアンテナを立てておく事も大切である。子どもや高齢者の方が安全に楽しめ、参加しやすい事などが大切である。
- 春日井の伝統・行事・特産品などを広めるなどを行う。
- 従来とは違う目的を持った新しい事業にも取り組む。
- 地域を見つめ直し、地域課題を発見し、自らが解決していくという意識のもとで、誰でも参加でき、出展できるイベントを企画し実施する。例えば、地域で実施するイベントに他地域からも参加できるようにする。
- おもてなし交流会などを企画、運営する。

## 地域資源の有効活用

- 場所の借用などの手続きを簡略化、料金等を安くし、活動をバックアップする。
- 趣味や特技に長けた人を発掘して事業、イベントの際に披露してもらう。
- ワンコインカフェや赤ちゃん連れの親子が集う場づくりなどのため、定期的に地域の集会所を開放する。
- （事業等を）同一集会所のみで開催するのではなく、地域内の集会所を廻って開催する。
- 活動拠点が無い組織に、近くの公的施設などを借りやすくする。
- 休日の学校等をふれあいの場として活用する。
- 現在地域にある人財、設備を誰でもが協働してイベントに参加、運営する。例えば、集会所等に、地域の人、そうでない人も使用できる「模擬店」を開く。

## 活動主体相互の連携

- 独自の活動以外は得意でないため、行政が中心となり、連絡、交流会等を企画。各々が連携しやすい環境を作る。
- 団体相互間で資格のある人の役員のかげ持ちをする。互いは役員会等へのオブザーブをする。
- アトム通貨のような地域通貨をコミュニティのイベント事業やボランティアの報酬に活用する。
- コミュニティ単一の開催ではなく、他団体や趣味のサークル等が協力できる企画を考える。また、積極的に他団体の行事にも参加し協力していく。
- 団体間の交流会を開催する。
- 子ども会と老人会などが一緒に行事を行う。（おじいちゃん、おばあちゃんの知恵を継承）
- 地域の各種団体相互の情報交換や交流を推進し、組織作りを市民活動支援センターが担うために、住民や各種団体などをつなぐコーディネーターの育成をする。